

早期胚死滅を減らすためにできる飼養管理

静内診療所

川越 美琴

繁殖シーズンお疲れ様でした。せっかく一度受胎したにもかかわらず、再鑑定で消えていた時のショックは大きいです。今回は早期胚死滅について書かせていただきます。

日高の馬において、

- ・早期胚死滅率(受胎～5週まで)は5.8%
- ・胎児喪失率(5週から出産まで)は8.7%

とされています。(「妊娠馬における早期胚死滅と胎児喪失の実態調査」2007～2009年 宮越ら)

飼養頭数が少なくなるほど誤差が大きくなると思いますが、自分の牧場で胚死滅が多いと感じる方は以下の対策をしてみても良いかもしれません。

対策①最初の妊娠鑑定から6週の再鑑定までは母体の体重を減らさないように管理する

体 重	増加	維持	減少
早期胚死滅率	1.9%	5.6%	7.0%
胎児喪失率	8.0%	7.0%	13.0%

表：17日目妊娠鑑定から6週の再鑑定までの繁殖牝馬の体重変化と早期胚死滅率・胎児喪失率

対策②ボディーコンディションスコア

(BCS) が5点を下回らないように管理する

BCS	5点以上	5点未満
早期胚死滅率	3.8%	11.8%
胎児喪失率	7.6%	23.4%

表：繁殖牝馬のBCSと早期胚死滅・胎児喪失率

対策③えんばくやトウモロコシの給餌量を減らして青草、乾草、こめ油に置き換える

海外では受精卵の発育が正常に行われることをサポートするサプリメントとして、藻類由来のオメガ3脂肪酸が用いられることがあるよう

です。

しかし、オメガ3脂肪酸は青草や乾草に多く含まれるため、サプリメントを購入する必要はないかもしれません。えんばくやトウモロコシにはオメガ3脂肪酸が少ないため、これらを減らして、牧草をあたえることで、より良いバランスで必須脂肪酸を取れると考えられます。また、こめ油も脂肪酸のバランスが優れている栄養源です。

対策④青草の採食量のコントロール

放牧地の掃除狩りによって牧草を短くすることで、牧草自体の栄養価も高まるうえに、嗜好性も高まり、馬がよりたくさん牧草を食べるようになります。

青草が出始めたころに早期胚死滅が多いと感じたことはないでしょうか。牧草の質の向上によって母馬が急激に栄養過多になることは、子宮頸管の拡張を引き起こして、菌が子宮に入りやすくなり、細菌性胎盤炎による胚死滅のリスクが増加することがあるようです。放牧中の採食量のコントロールは難しいと思いますが、放牧時間・面積などと一緒に掃除狩りのタイミングや頻度も検討してみてください。

BCSが

5未満の場合



- ・乾草、こめ油、配合飼料の給餌料を増やす
- ・放牧時間の延長
- ・掃除狩りの実施

- ・えんばくや配合飼料の給餌料を減らす
- ・放牧時間の短縮
- ・掃除狩りの間隔をあけるまたは短めに刈る

BCSが7以上

または急激に体重が増加した場合

